

栞頁

乙乃出此若く竹乃如不住也	桃披
風死枯く藪をきくは新傳き	素梅
嬉嬉々々笑踊る此小歌あり	南畑
深き一て歌るる柳乃雲表	筆利
溪乃夕下影をくむおとく	金馬
蝶乃月をく文て揚屋の井乃下	馬成
始妻は六十をく来りて	稻む
新影をく赤梅由一を裁り	本場

寛政三

